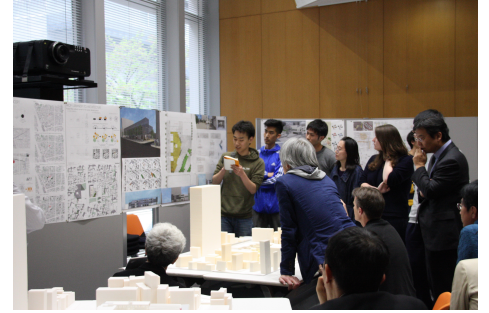


名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学コース
 パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校
 天津大学建築学院

2017 年度国際建築・都市設計ワークショップ 「Regeneration of Closed School Site as Cultural Crossing Spot in City Center of Nagoya」



大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学コースでは、2017年4月17日(月)から21日(金)までの5日間、名古屋大学東山キャンパス環境総合館1階レクチャーホールを会場として、フランスのパリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校(ENSA-PVS)と中国の天津大学建築学院と合同で、建築・都市設計ワークショップを開催しました。今回はENSA-PVSから都市計画や建築を専攻する13名の大学院生、天津大学から同じく大学院生・学部生14名と名古屋大学建築学コースの大学院生22名(うち2名はNUPAGE留学生としてENSA-PVSから名古屋大学に在籍中)の計49名が参加しました。ワークショップの指導はENSA-PVSのBoris WELIACHEW教授とMarc TABET教授、天津大学の鄭穎副教授と何捷副教授、本学の小松尚准教授と4名のティーチングアシスタントが行いました。

本ワークショップは、本学の建築学コースとENSA-PVSおよび天津大学の修士課程相当の学生を対象に、異なる文化的背景を持った学生同士が英語を共通言語にして一つの建築・都市デザインの提案をまとめる機会として2009年から開催しています。また本ワークショップは、ENSA-PVSとは2009年度に、天津大学とは2015年度に締結した学術交流協定に基づいて、3校の協力の下、実施しています。

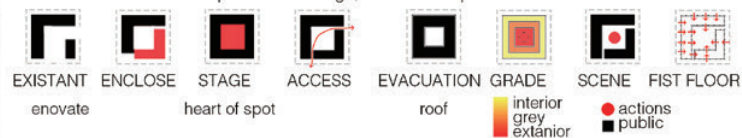
今年度は「Regeneration of Closed School Site as Cultural Crossing Spot in City Center of Nagoya」と題して、児童数の減少を理由にこの3月に廃校になった名古屋市西区の旧那古野小学校の廃校跡地を新たな文化的な交差点として再生するための建築・都市デザイン提案を検討しました。この廃校跡地は名古屋駅から徒歩5分の位置にあるまさに都心の大きな空き地と言えますが、再開発が進み、また2027年のリニア新幹線の開通に向けた開発圧力が迫りつつある場所でもあります。一方、その東側には円頓寺商店街や円頓寺本町商店街、四間道など多様かつ個性的な地域資源が存在し、また近年では個性的なイベントや木造民家の飲食店などへの改修転用が進むなど、地域主体のまちづくりが盛り上がっています。よって、この廃校跡地はさまざまな社会・文化・空間要素をつなぐ結節点になり得る場所であり、またそれが期待されています。

そこで、本WSではこのような課題と可能性に対して、水害や火災に対する減災対応も考慮した建築・都市デザインの提案を行いました。具体的には、WSまでに各大学で敷地および周辺分析を行い、その結果を持ち寄ってWS期間中に日仏中の混成グループ(1グループ7名)で建築・都市デザインの提案を検討し、発表するための図面や模型を制作しました。WS初日は名古屋駅周辺の都市計画・まちづくりに関する講義を受け、各大学での事前作業の結果を共有し、廃校校舎の見学の後に本格的なグループ作業に入りました。3日目には中間講評会、5日目の夕方には成果発表会と送別会を行いました。この間、2日目午後には日本建築学会賞を受賞している本学の豊田講堂(楨文彦氏設計)を見学しました。成果発表会では、各グループの調査・提案がA1版4~6枚の図面と模型によって発表されました。議論や制作時間は短い時間ながら、どの提案もこの廃校敷地の今後の活用や建築・都市デザインのあり方を検討する上で大変参考になる内容でした。なお、この成果発表会には名古屋大学の教員や学生とともに名古屋市の担当課や地元住民の方も来場し、学生提案へのコメントとともに来場者間の意見交換が行われました。

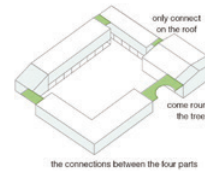
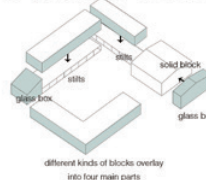
本パンフレットは、ワークショップの成果物をまとめたものです。

STRATEGIES TO GOALS

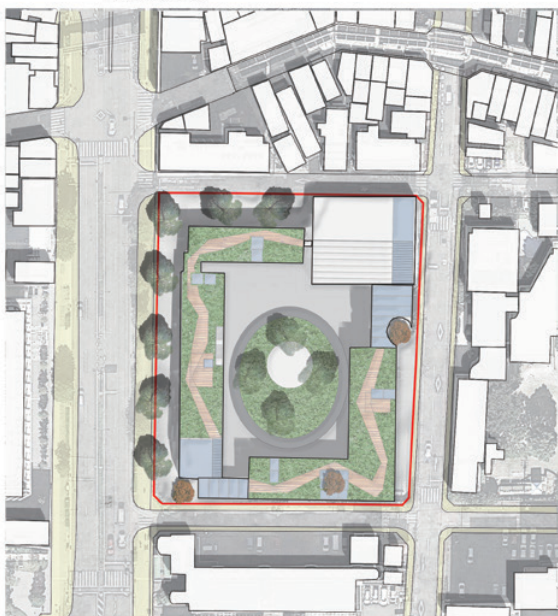
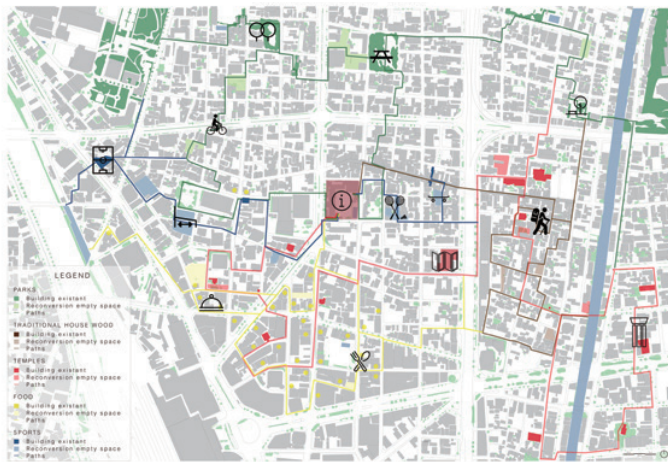
There are different kinds of space in our design, each kind of space has different functions.



The generation of blocks



The first floor



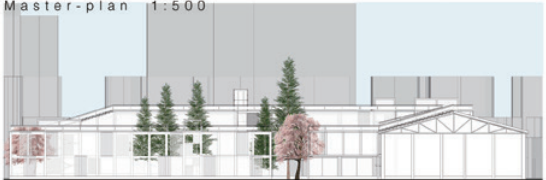
Master-plan 1:500



■概要

この敷地の周辺には、古い木造建築物や寺院、公園やスポーツ施設など様々な特徴を持つ場所がある。そしてこれらの場所や名古屋駅から徒歩5分以内にこの敷地があることから、この地域の中心として地域住民や観光客など様々な立場の人々が集まり交流できる建築を提案する。

既存の建物に加えて敷地を囲むように建物を配置し、中心に円形のステージと観客席を設ける。一階をピロティ空間にすることで、外部から自由にアクセスでき、敷地の外からステージまで様々なアクティビティを見ることができる。名古屋駅と円頓寺商店街からのアクセスを考慮し、南西と北東部分にガラスボックスのアプローチ空間を設け、既存の桜の保存も考慮した。また、既存の校舎を全面ガラス張りにし可動式のルーバーで外部からの視線を調節したり、一階のピロティに取り付けられている可動式の壁を動かすことでスペースをつくったり、利用者が自由に空間をつくることができる。屋上はそれぞれの建物の屋根を繋げることで歩いて一周できる空間にした。



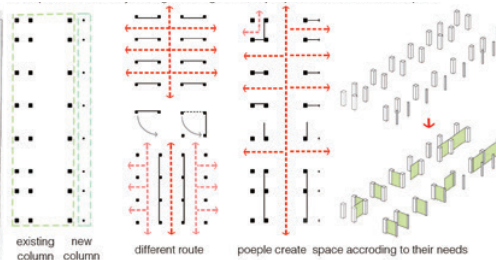
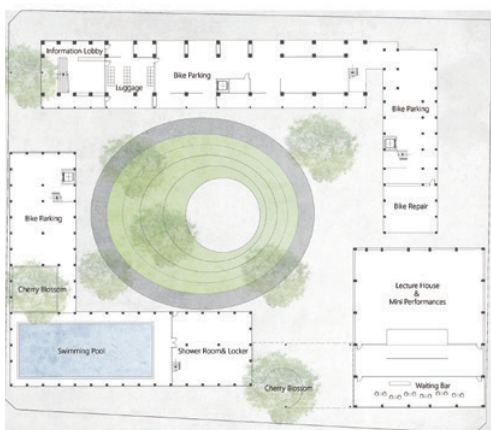
The east elevation 1:300



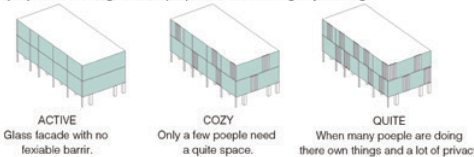
The north elevation 1:300



Section 1:300



The facade can change according to the need of people. So people outside can guess what people inside the building may be doing.



■メンバー

- GSES-NU
 Rina KAWAI
 Masayuki MITSUI
 Qiuhan YANG
 TIANJIN Univ.
 Danqing HUO
 Jie FENG
 ENSA-PVS
 Elise GAWSEWITCH
 Claire BERHAULT

Group2 Time planning



ACUPUNCTURE



Analogy

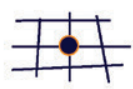
STEP 1 Stimulating acupoints **STEP 2** Dredging meridians **STEP 3** Life body of recovery



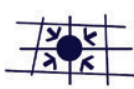
URBAN ACUPOINT

URBAN MERIDIAN

URBAN BEING



Urban convergence point



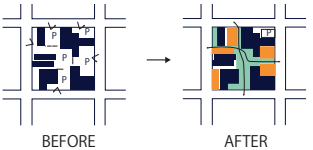
Stimulating the acupoint



Surrounding environment Spatial structure



Urban environment Spatial structure



BEFORE

AFTER

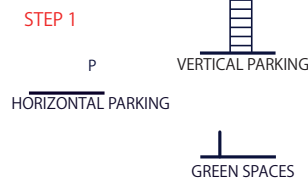


STEP 1

STEP 2

STEP 3

3 STEPS STRATEGY



STEP 1

HORIZONTAL PARKING

VERTICAL PARKING

GREEN SPACES

STEP 2

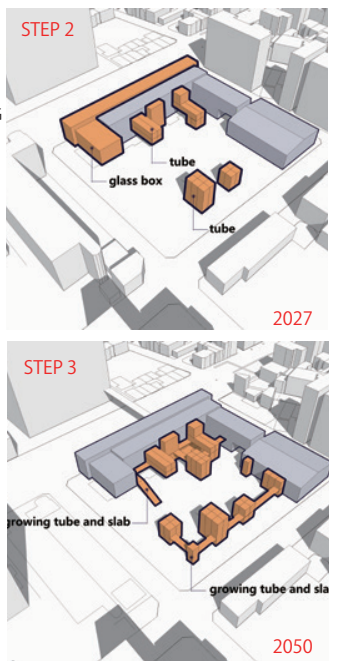
GREEN SPACES

MAKE DENSITY

STEP 3

CITY

MORE MIXITY

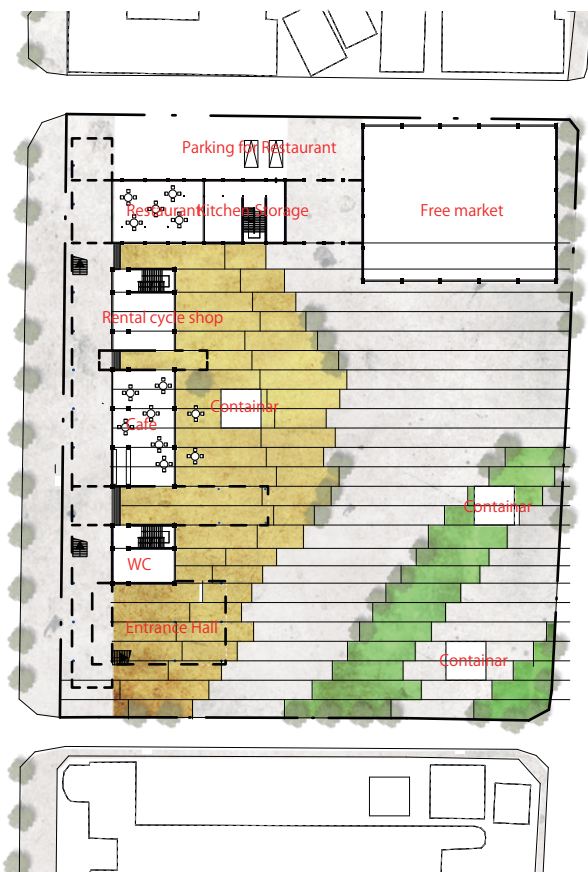


STEP 2

2027

STEP 3

2050



B-B' Section(S=1:200)

概要

名古屋市は 2027 年には東京と、2040 年には大阪がリニア新幹線とつながり、国籍問わず多くの人を訪れる。都市はそれに合わせて成長していくべきである。都市の文脈を読み取り新たに緑地を広げていく。それと同様に敷地内では、増設をしていく建築を提案する。既存の校舎にボックスで新たな正面を作り、チューブを貫入していく。そして時間を経過により、コンテナが増設され、都市の機能が增设される。発展する都市に時間の概念を用いて考える提案である。

メンバー

- GSES-NU
- Yuta ANDO
- Hiroto OTSUKA
- ZHANG Zheyu

- ENSAPVS
- Fanny VIALANEX
- Camille DELCOURT

- Tianjin U
- TAO Feifei
- YU Yang

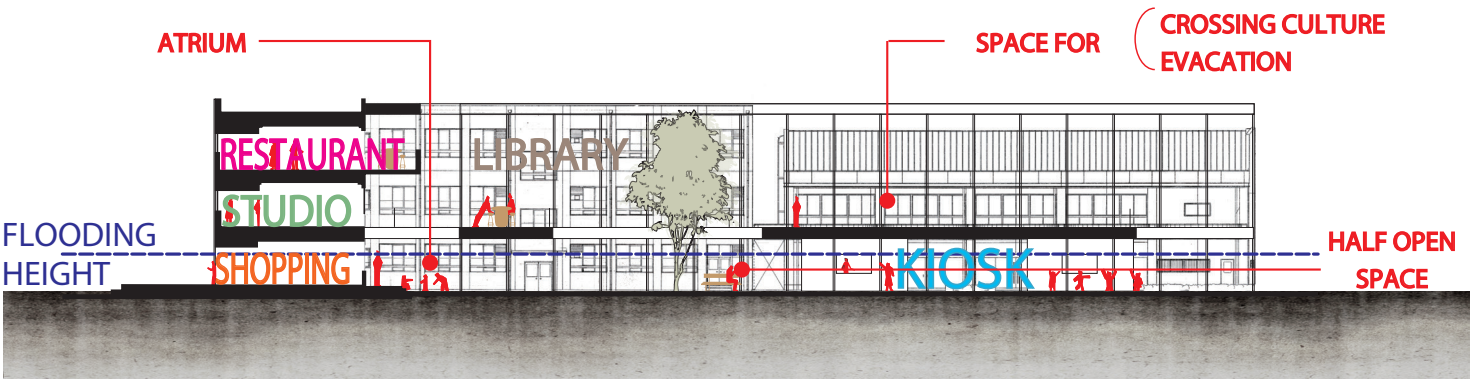
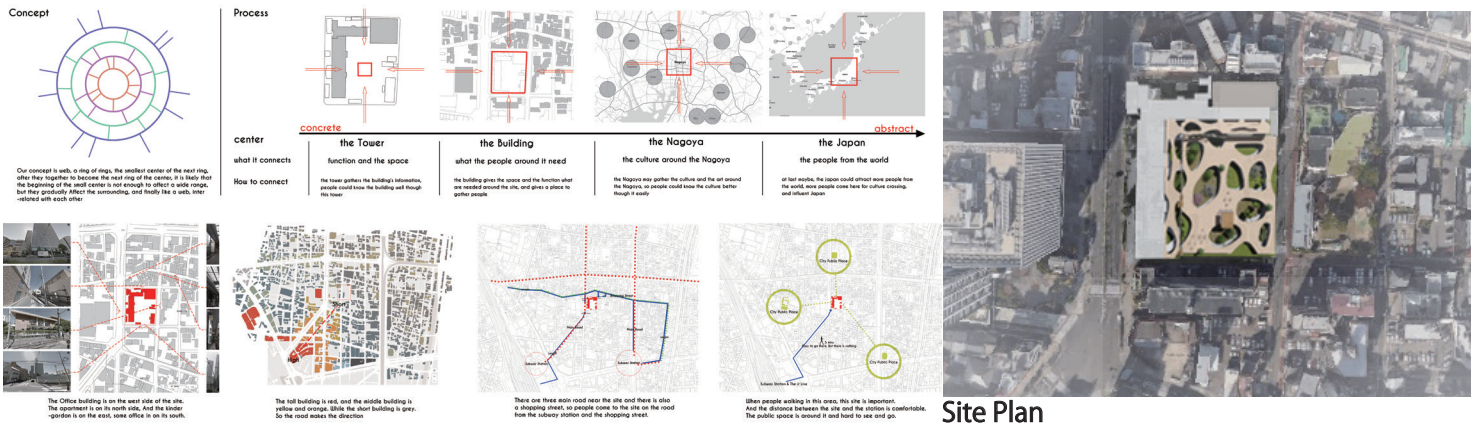
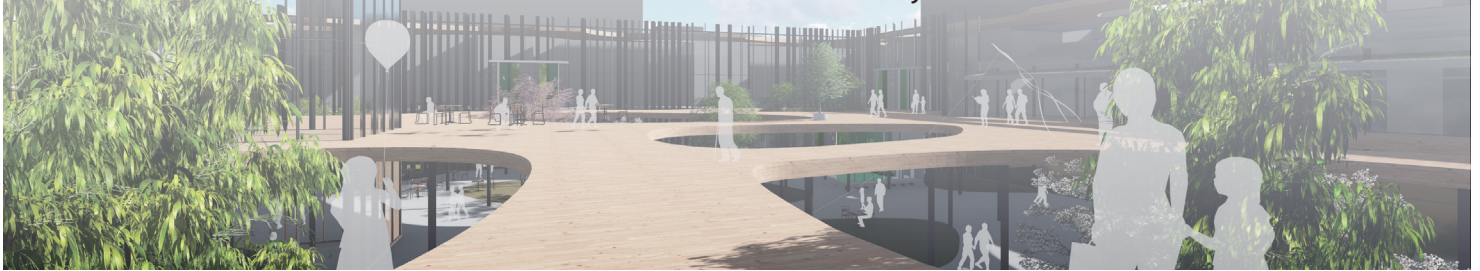
Group3 SUSPENDED WEB

概要

We design 3 open spaces. Half open space attracts a lot of various people and 2nd floor deck is for evacuation. Atrium can become the vertical connection. So we can eat lunch, watch the shows and read books at these open spaces. Our design causes cultural crossing.

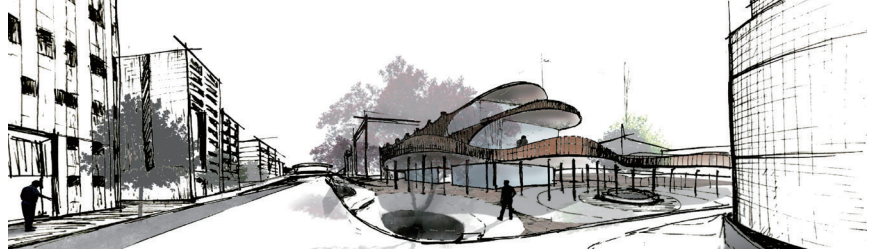
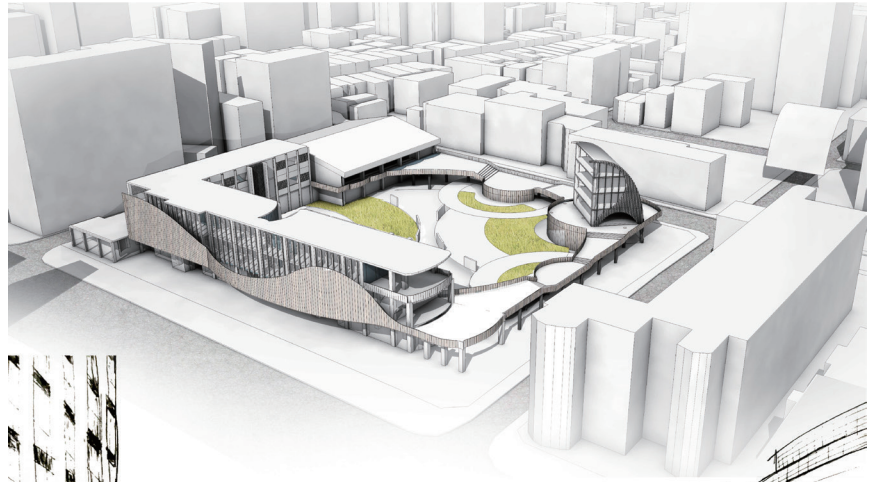
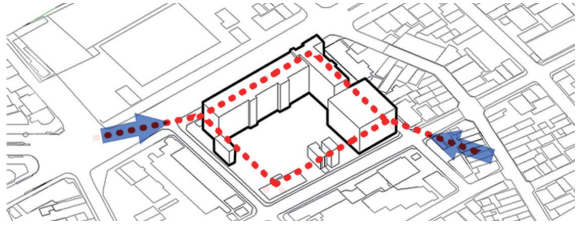
メンバー

GSES-NU
 Shohei TAKEUCHI Kosuke KAMEI Ye KAI
 TIANJIN Univ.
 WANG QING XU ZIYANG
 ENSA-PVS
 Marjorie COLAS Nicolas DENIEL LUQUE

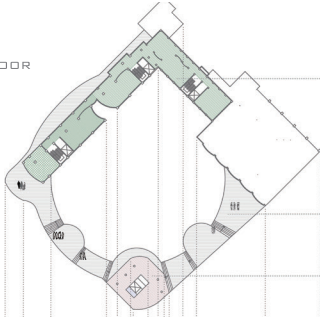


East-west section 1/500

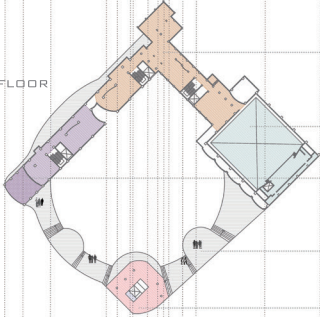




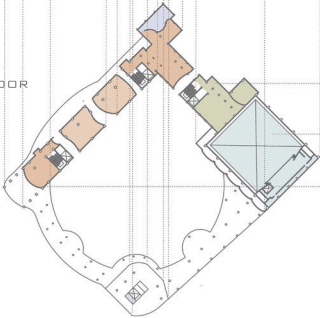
THIRD FLOOR



SECOND FLOOR



FIRST FLOOR



■概要

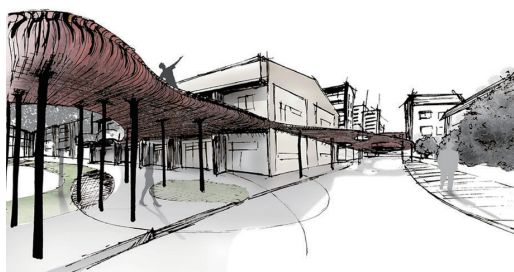
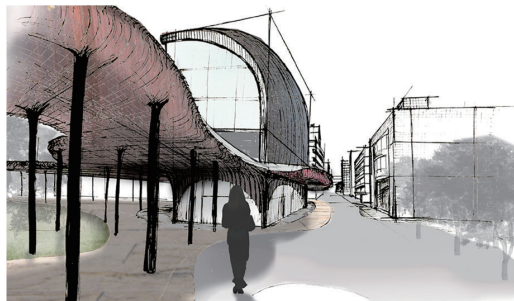
名古屋駅と円頓寺商店街との中間にある敷地で、2つを繋ぐ建築を考える。旧小学校の1階部分を、それぞれ独立した内部空間としてガラスで囲い、それらの間に、通り抜け可能な半外部空間をつつた。また、名古屋駅からのアクセスを考え、旧小学校の南西端部は、1階部分をピロティ、2階3階を段状のテラスとし、名古屋駅に対する建築の「顔」としてつくっている。同時に、L字形の小学校に対し点対称にGalleryをつくる。1階を既存の歩道を拡張した半外部歩行者通路とし、2階では小学校と床面を連続させ、敷地を1周囲むように配置されたデッキとなっている。Galleryは商店街の既存のアーケードまで伸び、敷地と商店街を屋根で直接繋げている。敷地南東隅部には塔が立ち上がり、この敷地を象徴づけるランドマークとなっている。

■メンバー

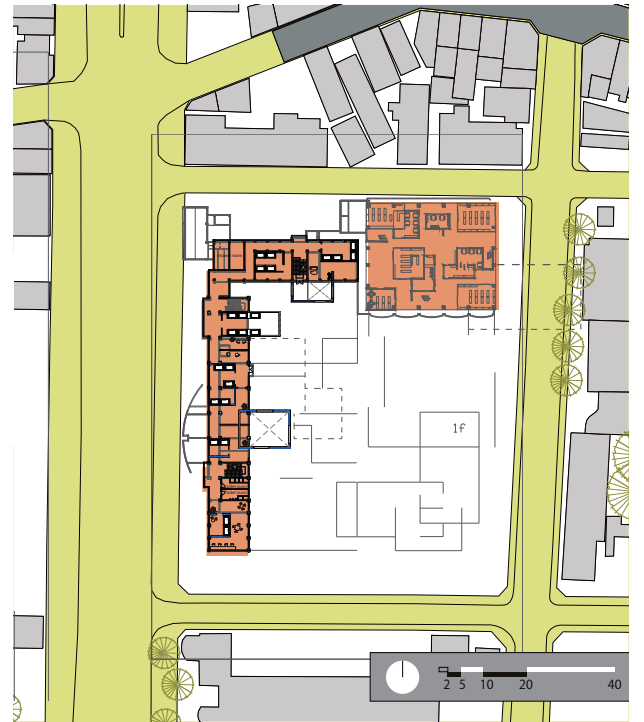
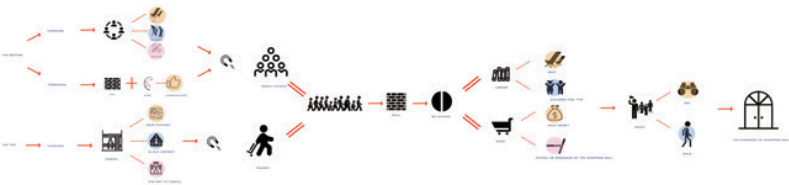
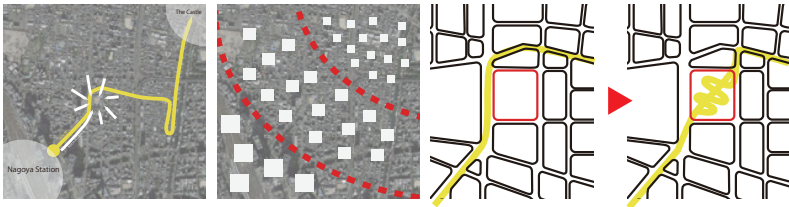
GSES-NU
Tenshi KAI
Akira ONUMA

TIANJIN Univ.
XU Haoyue
ZHENG Wanlin

ENSA-PVS
Blanca MARTIN ALMENDRAL
Alicia MARCO ZURIAGA
Paula CALLEJA FERNANDEZ



Group5 Wall Through Time



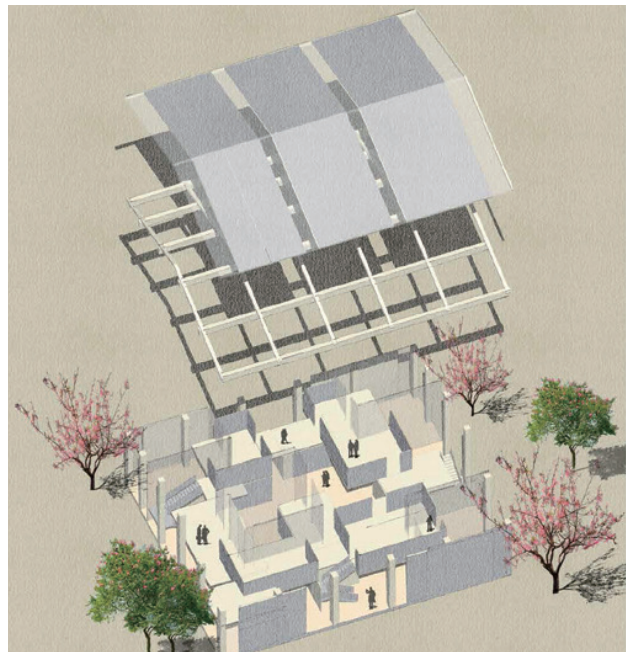
■概要

私たちは、どのように敷地南西の駅前通りから来る人々を敷地内に引き込み、円頓寺商店街へと流すかを主眼においた。既存校舎の1階部分に視線の抜けを作り出し、視覚的に敷地東側の通りと校庭をつなげることで、人々を西側の通りから敷地内へと自然に引き込む。校庭内には物理的な境界を設け、大規模なオープンスペースを居心地が良く、使い勝手の良い小さなスケールのオープンスペースの連続とする。境界となる壁の高さは様々で、高い壁は穴を開けることで、東西の通りの視覚的なつながりを保つと共に、屋外のファニチャーや子供達の遊び場となる。

校舎の2,3階はホステルであり、既存の壁を保存した校舎内にボックスを貫入させることで、ボックスと既存壁の間に様々な特性を保つ空間を作り出す。またボックスを内外の境界、上下階の境界で分け隔てることなく貫入させることで、様々な目的でやって来る人々につながりを生み出す。

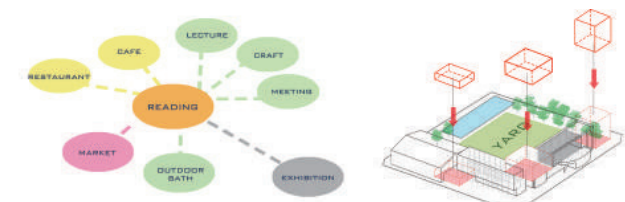
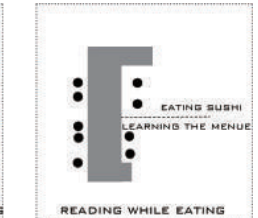
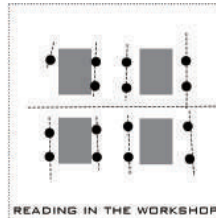
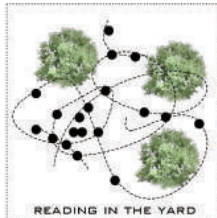
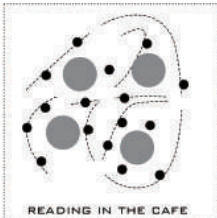
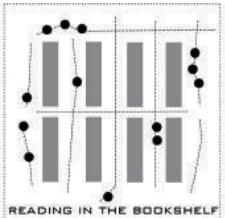
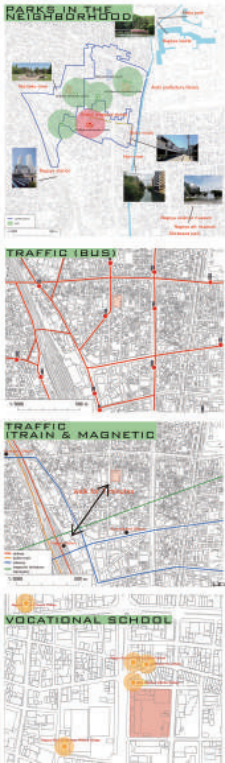
■メンバー

- | | | |
|-------------------|---------------------|-------------|
| GSES-NU | ENSAPVS | Tianjin U |
| • Hiroki KATAOKA | • Antoine GEORGES | • YU Lu |
| • RI Kyo | • Romain BERGERAULT | • HUANG Rui |
| • Mayuko YONEZAWA | | |



Group6 READING IN THE PARK

SITE ANALYSIS

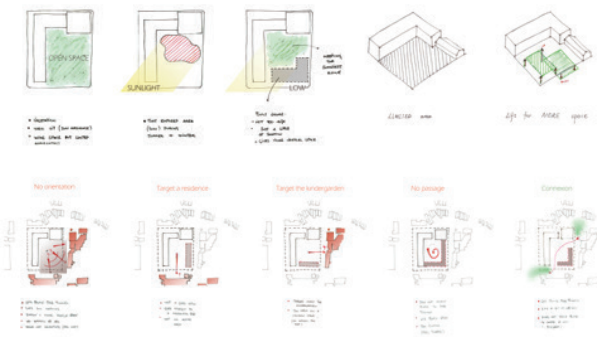
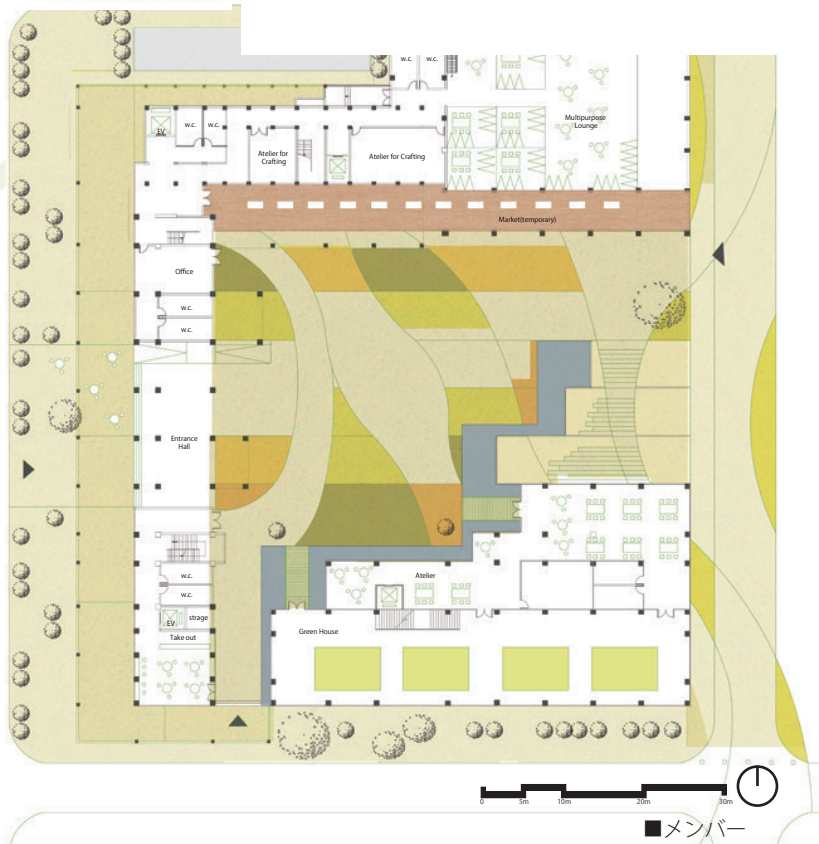
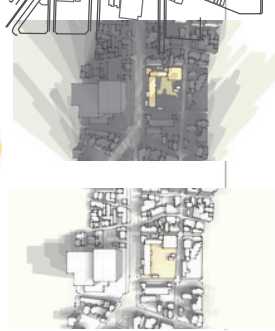
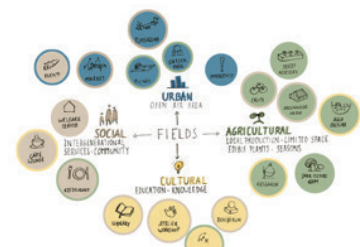
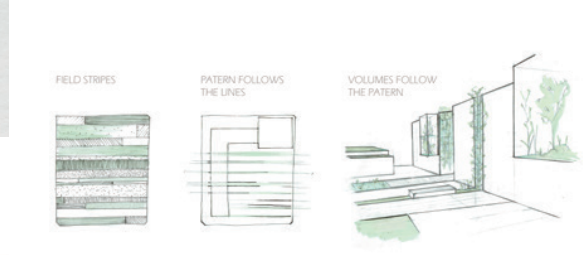
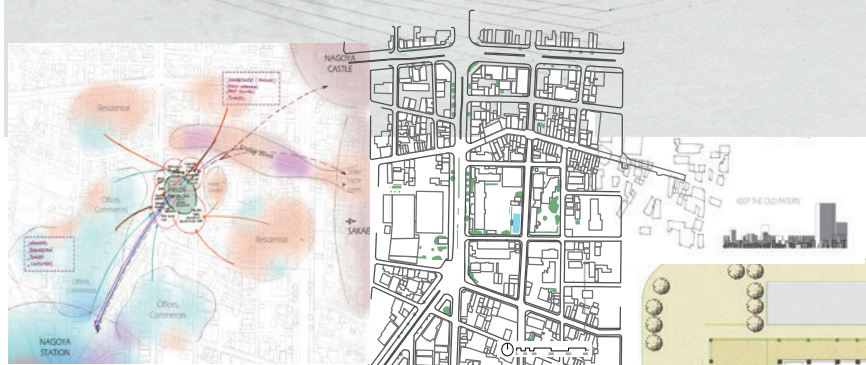


■ 概要

私たちは「様々な公園」ということをコンセプトに、2Fのオープンスペースや木々に囲まれる場所、ガラスに覆われた森、イベントが行われるような広場等の様々な公園を設計し、どこでも好きなところで本が読めるようなカルチャーセンターの計画を行った。既存校舎の減築及び、ガラスボックスの挿入により、アクティビティが都市側からも視認できる。また、有機的な形態の2Fのデッキにより都市、カルチャーセンター、校庭等をつなぐことにより、那古野のエリアの始まりの場所をデザインした。

■ メンバー

- GSES-NU
Yuki KOJIMA
XIA Shixue
- TIANJIN Univ.
ZHAO Wanlu
ZHANG Haoran
- ENSA-PVS
Chloe BELLARD
Gustave MATHIEU



■概要

敷地は、名古屋駅周辺の高層ビル群と、四間道・名古屋城といった歴史的遺構に続く円頓寺商店街を中心とした小規模店舗群・住宅街という対照的な都市のコンテキストに囲まれており、文化や職種、年齢を問わず様々な人々が行き交うような場所に位置している。しかし周辺に緑は少なく、人々が気軽に集まることができるようなオープン・スペースが不足している状況にあった。そこで私たちは、ここに「自然」と「食」をテーマとし、都市農場を主たるプログラムとするコミュニティ拠点を提案することで、この場所を都市のヴォイドとして機能させながら、様々な人々をつなぐ場所とすることができるのではないかと考えた。

日照のシミュレーションを行うことで植物が育ちやすい場所を特定し、限られた敷地を有効に活用するため校庭の一部を立体化することでオープン・スペースを拡充。そして、既存校舎の南北方向のスパンに合わせたストライプ状のパターンに曲線を組み合わせることでランドスケープを形成した。オフィスビルが立ち並ぶ西側にはファサードとして新たなヴォリュームを設け、スパンに沿って既存ヴォリュームを東側に対し一部せり出させることで円頓寺商店街周辺の細長い住宅のスケールを踏襲し、二つのコンテキストに対応するデザインを行った。また建築内の機能は、周辺建物や道路との関係性、既存校舎の教室の機能から決定している。

朝市や農業に関連したワークショップ、敷地内で収穫された野菜を提供するレストランやカフェといった機能が温室や地上/屋上庭園の存在によって可能となる。「自然」と「食」の拠点として再編成されることで、この場所は様々な人々が集い、緑や農業を通じて交流を持つことのできる場所として生まれ変わる。

■メンバー

- GSES-NU**
Kosuke Ogurahata
Yusuke Morishita
YI DING
- TIANJIN Univ.**
LU Sifan
GUO Jiaqi
- ENSA-PVS**
Alice KOBAYASHI
Elise MONCEAUX

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学コース
パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校
天津大学建築学院
交流実績

2009年4月：GSES-NU/ENSA-PVS 合同建築・都市設計ワークショップ 2009

(会場：名古屋、ENSA-PVS 大学院生 10 名、GSES-NU 大学院生 40 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20090413/index.html>>

2009年9月：Japon Workshop ENSA-PVS / GSES-NU 2009-2012 Prospective Metropolitaine

(会場：パリ、ENSA-PVS 大学院生、GSES-NU 大学院生 4 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20090927/index.html>>

2009年9月：名古屋大学大学院環境学研究科とパリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校の間で協定及び覚書を締結

報告記事 < <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20091130/index.html>>

2010年4月：GSES-NU/ENSA-PVS 合同建築・都市設計ワークショップ 2010

(会場：名古屋、ENSA-PVS 大学院生 12 名、GSES-NU 大学院生 36 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20100412/index.html>>

2010年9月：GSES-NU/ENSA-PVS 合同建築・都市設計ワークショップ 2010-2

(会場：パリ、ENSA-PVS 大学院生約 30 名、GSES-NU 大学院生 4 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20100921/index.html>>

2011年9月：GSES-NU/ENSA-PVS 合同建築・都市設計ワークショップ 2011

(会場：パリ、ENSA-PVS 大学院生 18 名、米国カンザス大学大学院生 10 名、GSES-NU 大学院生 5 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20110912/index.html>>

2012年4月：国際建築・都市設計ワークショップ 2012

(会場：名古屋、ENSA-PVS 大学院生 9 名、テルアビブ大学学生 9 名、GSES-NU 大学院生 27 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20110912/index.html>>

2012年9月：GSES-NU/ENSA-PVS 合同建築・都市設計ワークショップ 2012

(会場：パリ、ENSA-PVS 大学院生 18 名、GSES-NU 大学院生 4 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20120924/index.html>>

2013年4-5月：GSES-NU/ENSA-PVS 合同建築・都市設計ワークショップ 2013

(会場：名古屋、ENSA-PVS 大学院生 13 名、GSES-NU 大学院生 17 名が参加)

報告記事 <<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20140414/index.html>>

2013年9月：GSES-NU/ENSA-PVS 合同建築・都市設計ワークショップ 2013

(会場：パリ、ENSA-PVS 大学院生 15 名、GSES-NU 大学院生 5 名が参加)

報告記事<<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20130916/index.html>>

2014年4月：GSES-NU/ENSA-PVS/ TIANJIN Univ.合同建築・都市設計ワークショップ 2014

(会場：名古屋、ENSA-PVS 大学院生 13 名、GSES-NU 大学院生 21 名、天津大学 1 名が参加)

報告記事<<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20140414/index.html>>

2014年9月：GSES-NU/ENSA-PVS/ TIANJIN Univ.合同建築・都市設計ワークショップ 2014

(会場：パリ、ENSA-PVS 大学院生 26 名、GSES-NU 大学院生 7 名、天津大学 4 名が参加)

報告記事<<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20140922/index.html>>

2015年5月：GSES-NU/ TIANJIN Univ.合同建築・都市設計ワークショップ 2015

(会場：名古屋、GSES-NU 大学院生 17 名、天津大学 8 名が参加)

報告記事< <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20150525/index.html> >

2015年9月：GSES-NU/ENSA-PVS/ TIANJIN Univ.合同建築・都市設計ワークショップ 2015

(会場：パリ、ENSA-PVS 大学院生 約 60 名、GSES-NU 大学院生 6 名、天津大学 2 名が参加)

報告記事<<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20150914/index.html>>

2016年4月：GSES-NU/ENSA-PVS/ TIANJIN Univ.合同建築・都市設計ワークショップ 2016

(会場：名古屋、ENSA-PVS 大学院生 15 名、GSES-NU 大学院生 18 名、天津大学 14 名が参加)

報告記事< <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20160425/index.html>>

2017年4月：GSES-NU/ENSA-PVS/ TIANJIN Univ.合同建築・都市設計ワークショップ 2017

(会場：名古屋、ENSA-PVS 大学院生 13 名、GSES-NU 大学院生 22 名、天津大学 14 名が参加)

報告記事< <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/20170417/index.html>>

※2011年4月の名古屋でのワークショップは、東日本大震災発生のため中止した。

